

ヤマト絵日記 その14



女性部及びデイホーム事業より

中野1区

9月5日(木)に中野1区自治会女性部と病院合同で、地域の病院を気持ちよくきれいにとの思いから、年2回介護老人保健施設「せせらぎ」前を中心に草取りを行いました。有志によりデイホーム事業を立ち上げ、しあわせ館で行っています。9月16日(月)は健康チェック・シルバーリハビリ体操・昼食・午後は、オカリナグループをお呼びして楽しみました。



西城自治振興区 地域振興計画(別紙)

平成24(2012)年4月に西城自治振興区は発足しました。その際、10年を目標に「地域振興計画」を策定しました。この間、人口減少や西城自治振興区の体制がプロジェクト制から部制に変わるなど「地域振興計画」の見直しが必要となりました。活動目的等の項目をプロジェクト制から部制に改め、計画目標も5年としました。総代会で承認され、今回、全戸配布します。どうぞよろしくお願いたします。

参加者募集!



10月25日(金) 11月8日(金) いずれも13:30~

※都合により変更になることがあります

講師:宮原賢治さん

ユニオンズ

「生涯学習委託事業」少年スポーツ教室



こんにちは、ユニオンズです。西城リトルと比和総合スポーツ部が、2023年から1つのチームとなり、『ユニオンズ』として活動しています。

「やってみよう!やればできる!」がモットーで、無限の可能性を信じて最後まで全力で戦っています。部員みんなが仲良く、元気一杯のチームです。

9月14日には、西城球技場で、第1回ユニオンズ招待大会を開催しました。近隣の少年野球12チームを招待させていただきました、盛大な大会となりました。ユニオンズは1戦目を勝ち上がり、決勝戦では最終回まで同点でしたが、惜しくも準優勝となりました。最後まであきらめず、全力で戦うことができました。

ユニオンズでは団員を募集しています。気軽に見学、体験にお越し下さい。ユニオンズ 事務局 松永奈美江

東京・西城会の広報誌が届きました

うさぎ追いかの山 こぶな釣りしかの川 夢は今もめぐりて 忘れがたき故郷 ふるさと♪

東京・西城会の広報誌が届きました。センターロビーに他のチラシと並べていますので、ご自由にお持ち帰りください。

4月13日東京・西城会の総会に、西城自治振興センターとリモートで結んで、10分ばかりの映像を流して、西城の情景を紹介しました。蓮照寺の満開のしだれ桜と仁連原の桜並木の映像にはじまり、後段はドローンを活用した市街地の空撮でしたが、東京会場の歓声も聞き取れました。

過日、こんなくだりに接しました。「ふるさと」という言葉は好きだ。古里、故里、故郷、どれもいい。…しかし、私の最も好きなのは論語にある「父母国」という呼び方で、わが日本に於いても、これに勝るものはなさそうだ。「ふるさと」はまことに、「ちちははの国」なのである。ああ、ふるさとの山河よ、ちちははの国の雲よ、風よ、陽よ。」その昔の話になりますが、酒席ではマイクを取って、必ず「ふるさと」を熱唱される校長先生がおられましたが、いま、そのお気持ちの痛みほどわかります。東京・西城会の皆様の、遠く離れてのふるさとへの思いをお察しいたしました。西城自治振興区 会長 田村富夫



西城自治振興区だより

2024.10.21(月) Vol.148

西城まちづくり便

729-5722 広島県庄原市西城町大佐734 TEL/FAX:0824-82-2175 e-mail:saijyo.jichi@gmail.com



ヒバゴンのまち 自然豊かな広島県庄原市西城町の様々な情報をお届けします

西城町観光協会とタイアップした情報サイトです 地域の情報などを発信します



市政懇談会【9月6日(金)】

テーマ 安心して住み続けられるまちづくりに向けて ~庄原いちばんづくりの取り組み~



来春には、合併20周年の記念行事が行われると聞きます。この間、人口の減少や少子高齢化の進行、基幹産業の衰退など、中山間地域をとりまく課題は、深刻度を増して来ています。これらの課題のため、平成25(2013)年11月に「庄原いちばんづくり」がつけられ、庄原市の基本政策と位置づけられました。そして、今年2月に改訂がなされました。この度の市政懇談会は、この「第2期 庄原いちばんづくり」についてでした。

- 1 庄原いちばんづくりとは...
2 庄原いちばんづくりの取り組み
3 庄原いちばんづくりの成果
4 庄原市の人口動態について
5 安心して住み続けられるまちづくりに向けて「地域産業」「暮らしの安心」「にぎわいと活力」の3つの政策で構成され、「いちばん」とは、「やっぱり、庄原がいちばんええよのお」と実感できる、まちづくりです。

「暮らしの安心」のいちばん!では、子どもから高齢者まで、全ての市民が安らぎと活力ある暮らしができるように、しくみと基盤をつくるのがうたわれ、「子どもたちと多世代の集いの場の整備」が示されています。そこで、旧保育所の跡地を、それに供してほしいと要望しました。

市政懇談会での意見

「西城では、ウイル西城1階に子育て支援センターがあり、週2回、赤ちゃんや保育所に預ける前の子どもを連れてお母さん方が利用できます。2歳と4か月の子どもをもつ私の娘も良く利用させていただき、とても助かっている。支援センターには2人の職員が配置され、子どもの世話をしたり若いお母さん方の話し相手になったりして、子育てに係る悩みの相談や子育てに係る情報提供がされており、とても感謝しています。若いお母さん同士も、支援センターでお互いの情報交換がなされ、私の娘の励みにもなっているようです。その娘が、西城には子供と一緒に遊べる公園が無いのが残念でたまらないとこぼしていました。市は、上野総合公園に子どもが保護者と一緒に楽しめる公園を作ると聞いていますが、西城にも是非作っていただきたい。子育てが安心してできる環境づくりを今後も充実していただきたい」

市の担当者は、市に1つというのではなく、各町にもつくっていく予定であると返答されました。



水辺教室

9月4日(水)西城地区公衆衛生推進協会による「水辺教室」が西城小学校3年生17名を対象に行われました。

環境カウンセラー奥山秀樹さんを講師に迎え、西城川の水生生物を調べました。西城郵便局裏の川原でバケツに網を使い、生き物を集めました。生き物は小学校に持ち帰り、西城川の健康診断を行いました。診断方法は川に住む生き物は水質により違っている事を利用します。西城川はナガレトビケラ類などのきれいな水に住む生き物がたくさんみつき、水質階級I~IVのうち最上階級のI:きれいな水であることがわかりました。つぎは水にしょう油や牛乳などの食品、洗剤などをそれぞれの容器に混ぜて汚れ具合を調べました。

講師から、何が川を汚すのか、川を汚すものは直接すててはいけない。川を汚すものが少なくなるように考えてほしいとの説明を子ども達は真剣に聞いていました。



講師から注意事項をききます

水中生物を調べます

水質検査

西城郵便局裏の川原

子どもたちの幸せと、幸せな子育てを願って！

—「子育て・子育て」を地域で応援し、子育ての輪を広げていきましょう—

乳児は肌を離すな 幼児は手を離すな
少年は目を離すな 青年は心を離すな

8月15日(水)庄原市「二十歳を祝う会」が実施され、対象者291名(うち西城は男性14名、女性10名)の若人がまばゆいほどに輝いていました。市長より、「庄原で生まれ育ったこと…いつまでも皆様を支えてくれるご家族・ご友人・地域の皆様がいることを忘れずに」と祝辞を述べられました。子どもは地域の宝、未来への希望です。その笑顔は家族の喜び、地域の活力を生み出します。じいじばあばは皆、孫のオッカケです。



庄原市二十歳を祝う会

さて、昨年4月には、子どもまんなかの社会を実現するため「こども家庭庁」がつくられました。また、今年4月には、子どもと家庭を守るための改正児童福祉法も施行されました。そしていま、今年12月から、異次元の少子化対策として、児童手当の支給額・対象も「高校生まで」引き上げられなど、社会全体の構造や意識を変え、子育て世帯が安心して子育てしやすい環境が整備されようとしています。

～今年度の「市議会と語る会」(11月14日)のテーマ、第1回役員会 (7/4)

「子育て支援について、旧保育所の跡地利用」などを柱に決定！～

庄原市では、「第2期庄原市みらい子どもプラン」(子ども・子育て支援事業計画 ①幼児教育・保育の充実②子どもの居場所づくり③妊娠期からの子育ての支援④子育てを支える環境整備と地域における支援)に基づいて総合的な施策が進められています。そして、上野公園内に「子どもたちと多世代の集いの場」整備が構想されています。また、今年6月に、庄原社会福祉協議会に、庄原市ひきこもり支援ステーション「ここサポ」(窓口は西城地域センターにもあります!)が新しく設けられて相談が寄せられているとお聞きます。

西城では、「しあわせ館」の存在は大きく、子育て世代包括支援センター「ほのぼのネット」が設けられて、妊娠・出産から育児・子育ての切れ目のない相談がなされて、幼児あそびの広場も備わっています。そして、ウィル西城1階にある子育て支援センター「キッズルームひよこ」は、子ども、子育て・親育ちの「ひろば」として開かれています。

地域では、朝の登校引率・老人会による下校時の見守りをはじめ、各種スポーツ少年団や放課後児童クラブも、地域住民の参画により維持され、子ども会活動ももたれています。自治振興区でも、水辺教室・子ども写真教室や読み聞かせグループおはなし会ダンボ、ブックスタート(4、5か月検診の赤ちゃんへ絵本を贈る)などや、学校になじめない子どもたちの居場所「ひなたぼっこ西城」の支援をしています。

また、今年5月18日(土)移住定住をすすめる西城みらいラボの「西城ぎゅっとマルシェ」(旧宮崎旅館)では、西城で子育てを語ろう!と県内各地で支援活動を続ける福山の「ママノヒビ」、FMラジオのDJとして知られる井口絵海さんが来場し、託児ボランティアをする紫水高校生も加わり、子育ての大変さと楽しさを話し合うママさんたちの交流会がもたれました。

西城保育所や西城小・西城中・紫水高校のご努力はもとよりですが、庄原市や社会福祉協議会の子育て支援についても学んで、地域で寄り添いながら、子育ての輪を広げていき、親が子育ての幸せを味わえる地域社会をつくっていきたくと考えます。子どもの居場所は家庭や学校だけではないので、地域ぐるみで子どもの居場所づくりも考えて、見守りたいと思います。(過日、9月6日の市政懇談会では、子育て世代のママさんたちの願いとして、屋外での幼児の憩いの場がないのだとお聞きし、見れば、旧保育所の跡地は施設され、野ざらしになった幼児用の滑り台・ブランコ、砂場も、木陰もあって、少し手を加えれば、すぐにもなんとかなるのではとも考えました。)



旧西城保育所の跡地

よろしく願いいたします。 西城自治振興区 会長 田村富夫



西城小学校の児童の登校風景

西城子育て支援センター 火・木曜日(祝日は除く)9:30~12:00、13:00~15:30開所



助産師の瀬戸照美さん

ウィル西城内にある子育て支援センターにお伺いしました。子育て支援センターは子育てに関する相談・子育て情報の提供・子育て家庭の友だち作りや交流の場の提供・子育てサークルの活動支援などを行っています。

9月26日(木)は支援センターの活動で助産師 瀬戸照美さんによる「ベビーマッサージ」のお話と実演が行われました。参加者は西城町、旧庄原市などの4か月から2歳4か月の子どもとお母さん8組です。それぞれ自己紹介をしてからベビーマッサージの説明です。使うオイルのアレルギーの確認をすること。足、お腹、上半身、背中と子どもの身体をマッサージ。目を見ながら声をかけ、一緒に楽しいねと。お母さんの顔が自然と笑顔になります。子どもはリラックス。気持ちよさそうです。お母さんが子どもをさわり、可愛いよと思うことが一番の効果です。幸せのホルモンが出ます。皮膚を触ることは脳を触ることと一緒。難しく考えず、いつも触って、いつも声をかけて、いつも遊んであげてくださいと話されました。



滞在した1時間、子どもの笑顔とお母さんの笑顔にずっと会うことができ、心が癒されたと同時に幸せになってほしいとも思われる時間でした。

祝 あなたの笑顔に出逢えてよかった! 敬老会事業

ヒバゴン長寿を祝う!

9月15日(日)第17回敬老会を行いました。今年も9月12日、広島県に「新型コロナ医療ひっ迫警報」が発令されたばかりなので、受付で看護師により体温測定等の問診を行い、安心安全な敬老会を始めました。



五日市公盛会

長寿の表彰式(米寿の方2名と、百歳の方1名)を行いました。つぎに、庄原市シルバーリハビリ体操指導士2名によるリハビリ体操の指導を受けました。この体操は、道具を使わず「いつでも・どこでも・ひとりでも」簡単にでき、高齢者の介護予防を目的とされています。体操が終わったあとに笑顔が多くみられ身心とも元気になられたようです。最後に、ひまわり一座の演劇舞踊・社交ダンス・歌など10演目があり「すばらしい」・「楽しかった」という皆さんの声を聞くことができました。比婆山連山からヒバゴンがかけつけ会場の皆さん方と手をふれあって長寿を祝福してくれました。今年も「愉快で楽しい敬老会だった」と喜んでもらうことができました。 五日市公盛会 事務局 樋口研二談

大屋敬老会 今櫛会

9月8日(日)今櫛会では、コロナ禍明け2回目の敬老会を参加者30名(内スタッフ7名)にて開催しました。



1部では、休耕田を利用した「楽しい畑グループ」による12年間の喜怒哀楽の歴史を、寸劇を交えた発表がありました。

2部では、庄原から「シラガーズ」を呼び、素晴らしい演奏とユーモアあるトークで楽しい一時を過ごした後、全員で昼食を取り解散致しました。



今櫛会 会長 岡田隆博談

5年ぶりの敬老会 9月15日(日) 38名 五町自治会

開会で、「よろこべば、よろこび事が、よろこんで、よろこび連れて、よろこびに来る」の歌を引いて、今を喜ぶ笑顔が次の幸せを連れてくる!と挨拶をいたしました。敬老記念行事、スコップ三味線、笑いヨガ、シルバーリハビリ体操、会食みんなで歌おう!ティータイムとすすみ、また、ドローンを飛ばしての実演、披露もありました。



閉会では、あの頃はよかったではなく、今がいちばん良い!と思って暮らしていきましょうと語られ、文字通り「えがお」はじける「よろこび」の一日になりました。 五町 会長 田村富夫談

